### 政策重点分野(環境エネルギー分野)

### プログラムオフィサー(PO)としての募集・選考・採択・推進に対する基本的方針



「共創の場形成支援プログラム」における政策重点分野(環境エネルギー分野)では、大学等を中核機関とする蓄電池分野にかかる拠点の形成を目指す提案を募集します。最長で 10年にわたる長期プロジェクトの提案を募集するものであり、先行する関係プロジェクトにはない挑戦的課題や、特徴ある魅力的な拠点形成に取り組む積極的な提案を歓迎します。提案に際しては、公募要領の本紙と別紙に記載されている内容もご確認いただきたいですが、ここでは、POとしての考え方を改めてお示しすることで、提案をお考えの皆様のご理解の一助としていただきたく存じます。

2019 年ノーベル化学賞の授賞対象であるリチウムイオン電池に象徴されるように、蓄電池に関する研究開発は、これまでにモバイルIT社会への本質的な貢献を果たし、また現在および今後も自動車・航空機の電動化や再生可能エネルギー導入促進といったクリーンなエネルギー社会の枢要を担うことが見込まれています。一方で、昨今の大規模自然災害の多発や、ウィズ/ポストコロナ下の対応等に伴い、私たちの社会活動や経済活動は今後大きく変革することは避けられないと考えます。したがって、環境エネルギー分野ひいては蓄電池に関する研究開発も、エネルギーの自律分散化や、デジタル技術の普及拡大に伴うエネルギーの需要と供給バランスの最適化といった観点等を、これまで以上に考慮する必要があるでしょう。いずれにしても、プロジェクトの最も重要な前提となる拠点ビジョン策定においては、国の「革新的環境イノベーション戦略」を基軸としつつも、上記を踏まえて、未来のあるべき社会像を多角的に検討していただきたいので、提案の際にはご留意ください。

また、この拠点ビジョンからバックキャストされる研究開発についてですが、公募要領別 紙に記載された「期待される取組内容例」に関しては、あくまでも例示を並べたものであっ て、ここに記載された全てを産学共創拠点 (プロジェクト) 内で包含する必要はありません。 むしろこれら全てを内部で取り組むとすると、プロジェクトの焦点が定まらないことが懸念 されます。一方で、新たなオープンプラットフォームとしての産学共創拠点の形成に求められる、外部とのネットワークの構築の重要性という観点に立てば、プロジェクトとして重点的に取り組むことと、外部との連携強化により取り組むこととが明確に分かるように、提案の際にはご留意ください。

なお産学共創拠点の形成に際しては、公募要領別紙にも記載の通り、先行する関係プロジェクトとの連携や関係省庁・機関との会議への参画に加え、人材の育成や産学官共同での課題検討の場の構築を求めています。成果状況によっては、多少の挑戦的要素に取り組んでいただくことも可能と考えます。上記の繰り返しになりますが、国の戦略も踏まえた多角的観点からの拠点ビジョンのもと、先行プロジェクト等にはない、このプロジェクトならではの特徴ある魅力的要素が何であるのかについて、提案の際には明確に示していただきたいと思います。

私自身は長年、学術界において蓄電池の研究開発に取り組んできましたので、今後の選考やプロジェクトの進捗把握・助言・評価等においては、蓄電池に関わる様々なバックグランドを持つ方にアドバイザーとして加わっていただきつつ進めてまいります。上述のように、最長で 10 年にわたる比較的長期のプロジェクトとなりますので、特に採択されたプロジェクトに対しては、時代の変化にも対応した拠点ビジョンを常に共有しながら必要に応じ更新しているか、そのもとで多様な業界からの新規参入を促すような開放された魅力ある産学共創拠点が形成されているのか等を随時投げかけつつ、効果的なプログラム運営に努めていく所存ですので、多くの挑戦的な提案を期待しております。

かんの りょうじ

# **菅野 了次**(東京工業大学 科学技術創成研究院・教授、全固体電池研究ユニットリーダー)

### 【経歴】

- 1978年 大阪大学理学部化学科卒業
- 1980年 大阪大学大学院理学研究科修了
- 1985年 大阪大学理学博士
- 1984年 フランス政府給費留学生 ボルドー大学固体化学研究所
- 1980年 三重大学工学部資源化学科助手
- 1989 年 神戸大学理学部化学科助教授
- 1991年 米国オレゴン州立大学文部省在外研究員
- 2001年 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授
- 2016年 東京工業大学物質理工学院教授副学院長
- 2018年~東京工業大学科学技術創成研究院教授

全固体電池研究ユニット ユニットリーダー

## 【専門】

固体化学、電気化学、固体イオニクス